



保険業界向け クラウド導入サービス

Hello, tomorrow.
Cloud-forward is
future certain.

Your Cloud journey: クラウド活用において検討すべきこと

保険会社がその基幹業務にGuidewireのソリューションを活用し、クラウドへの移行を進める際、私たちPwCは戦略立案、構想策定、開発、保守対応まで幅広い視点を持ち、アドバイスを提供しています。検討における一般的な論点をご紹介しますが、詳細については、PwCコンサルティング合同会社の担当者までご照会ください。

なぜクラウドを活用するのか？

保険基幹業務のITモダナイゼーション、プラットフォーム検討は業界共通のトップトレンドであり、各保険会社にとって重要なIT投資の1つとなっています。特に、基幹系システムに対する最新技術の導入や活用は注目度が高く、それとともにクラウド活用または移行といった検討は、事業規模を問わず、各社で年々増加していくと予測できます。Guidewireのような最新のクラウドサービスにおけるデータモデル、セキュリティ、デジタル機能等は、新たな業界標準として位置付けられる可能性があることから、注目を浴びています。

また、昨今のクラウド移行の増加に伴い、各社クラウドに係るスキルを有する人材も増加しており、以前より検討しやすい環境となっています。

クラウド積極活用への移行メリット

保険業界におけるクラウド技術やSaaS (Software as a service) ソリューションは継続して成熟していくため、クラウドに舵を切る各社は、一般的にビジネスとIT両側面で長期的に収益貢献や効率性、コスト削減などの費用対効果を享受することができます。



収益貢献

クラウドが一般的なサービスになるにつれ、クラウドは顧客のビジネスの維持および成長に不可欠になります。エンドユーザーのニーズの変化に応じ、新しいテクノロジーでビジネス要件に迅速に対応することが可能となります。

ビジネス面

- マーケット展開のスピード化（新商品やチャネル創出）
- 他業種連携などマーケット拡大機会の増加
- エンドユーザーエクスペリエンスの向上

IT面

- テクノロジードリブンな変革の推進
- 可用性の向上
- InsurTechソリューション等との連携・活用



効率性

クラウドにあらかじめ装備されている機能や合理的な開発方法、マネジメントサービスを最大限活用することで、システムの開発から利用、管理まで効率化が可能となります。

ビジネス面

- オペレーションの俊敏性向上
- 生産性の向上
- 規制への迅速な対応力
- レポーティングと分析能力の強化

IT面

- パフォーマンス管理の効率性向上
- CI/CD^{*1}やDevOps^{*2}などへの適用
- ソフトウェア開発における効率性向上

^{*1} 継続的インテグレーション/継続的デリバリー

^{*2} 開発と運用が連携し、迅速に開発するソフトウェア開発手法



コスト削減

価格体系は収入保険料比例方式や従量課金方式となりますが、短期間で従来のシステム基盤コストの削減が可能となります。また、長期的には、拡張性や俊敏性の向上により、機能拡張や更改の容易性が高まり、コスト削減効果に繋がります。

ビジネス面

- 損害調査費の適正化
- 顧客のセルフサービスモデル化
- 手作業の自動化
- ビジネス主導でのデザイン・設定が可能

IT面

- クラウド移行時の複雑性の軽減
- データ管理の負荷削減
- メンテナンス運用の削減

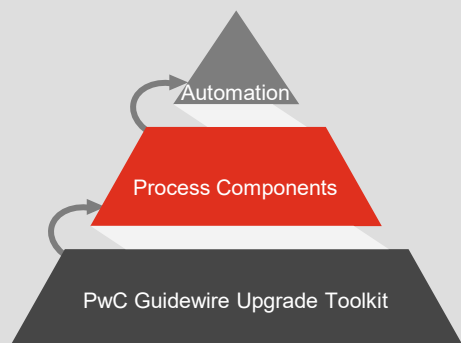
クラウド移行を検討する際に考慮すべき事項

Guidewireクラウドはシステムのアップグレード頻度が一般的なシステムと異なるため、クラウド移行を検討される際、メンテナンスにおいても長期的な視点での考慮が必要です。Guidewireは、年2回のシステムのアップグレードがあり、利用各社は年に1回のアップグレード対応が必要となります。アップグレードに要する工数、システム機能、UI/UXの変更、潜在的なダウンタイム等の影響を判断するために、アップグレードに必要な要員やプロセスを十分に理解することが重要です。

1. 導入サイクルの短縮、チーム間コラボレーション

PwCは、クラウド製品の多様化、短期間でのプロトタイピング、アップグレードに伴うシステム停止期間の最小限化といった論点に対して、クラウドオペレーティングモデル、導入フレームワーク、クラウドプログラム管理を提供しています。長期間での開発から、短期間でのサイクルで開発を行うよう組織レベルで見直していくことが求められます。

迅速なシステムリリースとアップグレードの効率的なサイクルを実現させるために、開発の開始時点から、保険会社、クラウドプロバイダー、システムインテグレーター間の広範な協働が必要です。そのためには、マイルストーンにおいてチーム間で成果物を連携する従前のアプローチから、協調的に調査／評価／新機能の実装計画を並行して行う新しいアプローチへ変革していくことが重要です。短期間でのクラウド導入や、そのデフォルト機能を活かしつつ最小限の開発を行う方式で支援することで、迅速にビジネスの価値を最大化することが可能です。



PwCのGuidewire Automation Toolkit は、システムのアップグレードと、標準化された再現性が高いアプローチでクラウドへの移行を支援する、ワンストッププラットフォームです。このツールキットは、PwCの専門家の知見や経験から成り立つものであり、Guidewireが提供する標準、テンプレート、およびベストプラクティスと整合しています。

2. テクノロジーへの準備

クラウドインフラストラクチャおよびクラウド移行に伴う、コードリファクタリングの検討が必要です。クラウドサービスプロバイダーの運用サポートを前提とするために、各クラウドソリューションの主要な慣行を順守することが求められます。一般論として、クラウドはオンプレミスで構築したシステムと比べ、セキュリティを担保することが求められます。具体的には、ログ管理、コーディング標準化、暗号化、ストレージ設計、周辺システムとのAPI連携、データ移行、およびクラウド内におけるデータベースへのアクセスルール等を考慮することが必要となります。これらの検討事項に対し、業界標準のプロセスとツールを活用したPwCのクラウドオートメーション、DevOps、およびガバナンスフレームワークを使うことで、インフラストラクチャとアプリケーションのインストール、プロビジョニング、デプロイ、監視のプロセスの自動化が可能となり、効果的に活用することができます。

セキュリティやコンプライアンスにおける管理・統制は、クラウド活用戦略で非常に重要な論点であり、専門機関・チームと協働することが重要になります。



セキュリティ管理・統制

PwCのクラウドセキュリティアーキテクチャフレームワークは、当局等の規定や標準化されたアーキテクチャを順守しながら、クラウドセキュリティ戦略策定および設計を実施するため、以下のようなセキュリティ管理におけるガバナンスを担保した導入に寄与します。

- データの安全性、完全性、機密性
- 個人を特定する情報の管理
- データへの適切なアクセス
- 適切なセキュリティ管理プロトコル
- あるべきデータ要件への対応



方法論とツール

多くのクラウドソリューションプロバイダーは、クラウド標準との整合性を保つため、ビヘイビア駆動開発（BDD）とテスト自動化戦略を取り入れています。

監視、認証、プロセスの自動化、スケーラビリティを担保したシステムインテグレーションとデリバリープロセスを実現するために、さまざまなクラウドに付随するツールの利用を検討することが一般的です。そのため、ビヘイビア駆動開発（BDD）の手法が有効であり、効率的にクラウド移行を進めることが可能です。

3. オペレーションチェンジマネジメント

PwCは保険業界における動向や蓄積した知見をもとに、各企業の競争優位性の構築という目線で、解決策の提言やソリューション提供を行っています。



CoE (Center of excellence)

クラウド導入に先立ち、ビジネス部門もIT部門もクラウドの知見を学ぶための資格や研修が必要です。システムの開発フェーズまでに、資格を取得したメンバーや研修を受講したメンバーで構成されたCoEを組織内に設置することを推奨します。CoEを設置することで、クラウド導入のアプローチ全体をベストプラクティスに基づいて推進することができます。PwCはGuidewire認定のマーケットリーダーとして、Guidewireの教育プロセスを踏まえてクライアントを支援することができます。



クラウドへの適応

クラウド導入の過程において、人や組織の変革は最も重要となります。特に、クラウド導入プロジェクトが開始される前であっても、主要な利害関係者とともに適切なITガバナンスを協議して戦略化すること、ITの導入や長期的利用により、新しい効果が生じることの共通理解を醸成することが重要です。また、導入するシステムとのギャップを解消するために、研修やコミュニケーションを用いてユーザーの理解をサポートすることで、新たな役割、プロセス、スキルにユーザーが適応できるようにする必要があります。



初期モデル検証チーム (Early model office)

プロジェクトライフサイクルの早い段階にて、個別業務の専門家(SME: Subject Matter Expert)を含めたチームを構築し、クラウドがもたらす変革のポイントを検証することが安定的なプロジェクト推進を可能とします。その結果、開発内容が業務要件に則っているか否かを早々に確認し、機能面やパフォーマンス面、品質面等における目標を早急に満たすよう調整することが可能となります。PwCは幅広い対象者に対して、Guidewireの知見習得を効率的に支援することができます。

4. 日本におけるチャレンジ

日本のマーケットでのチャレンジは、金融庁の課す厳格な規制要件の順守、消費者保護を主とした品質に対する厳格な対応が求められる点が挙げられます。Guidewireクラウドの導入を検討される際には、特に以下の4点に着目いただくことを推奨します。

i. 日本でのGuidewireクラウドの検討・導入実績

Guidewireクラウドの検討や導入実績はいまだ限定的であり、実装における手順や、マネジメントサービス利用を前提とした保守／運用の簡素化を検討していくことが重要になります。

ii. 日本特有のビジネス要件への対応

商品特性や規制に伴う日本固有の要件^{*3}に対して、多くのカスタマイズが発生するのが通例です。OOTB (Out of the Box) 機能を活用しながら、将来のアップグレードや保守と適切なバランスを取った検討・意思決定が重要になります。私たちは海外での豊富なGuidewireクラウド導入の経験と、日本の保険業界における知見、複雑なプログラムを統制するガバナンス能力により、適切なコントロールを支援します。

iii. アジャイル開発とガバナンス

多くの保険会社では、アジャイルでの開発を部分的に導入し始めていますが、スコープが確定しない前提でプロジェクトが開始することで発生するリスクをコントロールすることをアジャイルガバナンスとして形成し、マネジメントと事前に合意しておくことが肝要です。基幹系であるがゆえに大規模なプロジェクトになりがちであり、アジャイルをベースとしたIT開発方法論の準備、社内合意が肝要です。

iv. 協業体制

前述の通り、チーム間コラボレーションが重要になります。保険商品と業務プロセスに関する幅広い知識と Guidewire クラウドの技術的な実装について、両方をまとめることができるスキルセットを有したチーム組成が不可欠です。Guidewire クラウドの実装とその後の運用を成功させるには、保険会社、戦略的パートナー、データ連携が必要となる関連システム保守ベンダー等の協業体制が必要になります。また、Guidewire クラウドを理解するために、社員に対して基本的なトレーニングを受けてもらうことを強く推奨します。

*3 自賠責保険、履行期管理、事故受付の事故状況図、積算、支払い漏れや過払い防止、共同保険／代理店分担、損保VANなど業界標準対

私たちは、ビジネスやIT領域のリーダーと協働して、イノベーションとクラウド移行の成功を導くデジタルトランスフォーメーションと、クラウド戦略を支援しています。

主要メンバー

Takayuki Saito | Partner

Damanjit Singh | Partner

Vinod Vishwanath | Director

Kosuke Okada | Senior Manager

www.pwc.com/jp

This document has been prepared only for Guidewire and solely for the purpose and on the terms agreed with Guidewire]. We accept no liability (including for negligence) to anyone else in connection with this document, and it may not be provided to anyone else.

© 2022 PricewaterhouseCoopers LLP. All rights reserved. 'PwC' refers to the UK member firm, and may sometimes refer to the PwC network. Each member firm is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.